

SONRISA

そんりさ

vol. 177



コロンビア

混乱の背景

紛争が続く農村で市民生活を送る元ゲリラ

02	コロンビア 混乱の背景	……柴田 大輔
05	コロンビアに住んで 44 年	……高橋 弘昌
09	回想のラテンアメリカ ボリビアへ	……唐澤 秀子
11	ラ米百景 轟音の記憶	……伊高 浩昭
12	メキシコ料理 梅のデザート	…ミゲル・アクーニャ
13	ムネちゃんの LA 情報拾い読み・斜め読み	……小林 致広

2021 年 7 月 17 日 日本ラテンアメリカ協力ネットワーク (RECOM) 発行

コロンビア 混乱の背景

柴田 大輔

コロンビア全土に広がった反政府デモは、政府による増税案にコロナ禍で経済的に苦しむ市民が反発。4月28日から治安機関とデモ隊が激しく衝突し、多数の死者、負傷者を出しながら2ヶ月が経過しようとしている（6月17日現在）。これまでの経緯と問題となる背景を整理したい。

1 コロナ禍で拡大した格差と貧困

昨年、コロンビアでは、コロナ禍による経済活動の停滞により、貧困率は6.8ポイント増の42.5%となった。所得格差を表すジニ係数も悪化し、2012年と同レベルの0.537にまで拡大した。これは世界的に見ても高水準であり、特に都市部での格差が顕著だ。失業率は前年比で5.4ポイント増の15.9%となっている。日本貿易振興機構（JETRO）によると、これは統計が確認できる2011年以降で、最も高い数値だ。

こうした中で4月15日、政府はコロナ禍で肥大した財政赤字の解消を目的に、増税を主とした税制改革案を議会へ提出し、これに市民が反発した。労働組合や学生団体らによるストライキ委員会が4月28日に全国デモを企画、その後、治安部隊との対立が激化し、5月2日、政府は税制改革案を撤廃すると表明し、財務大臣が辞任した。

しかし事態は収束しなかった。貧困や治安問題など未解決の社会問題解消を求める市民が抗議を継続した。コロンビアのオンブズマン事務所によると、6月3日時点で治安部隊とデモ隊の衝突による死者は53人（警察官2名）、多数の負傷者が出ている。また治安部隊によるデモ参加者の恣意的拘束、実弾射撃など致死性の高い武器使用、性暴力を含む著しい人権侵害が報告されている。

5月3日、デモが始まって初めての週末には、全国でより一層の市民が抗議に参加した。国内第3の都市カリでは、同日、治安部隊と大規模な衝突が起き、抗議者5名が死亡し、



首都の路地にある平和を望むストリートアート

33名が負傷した。そのうち13人は銃によるものだったと、人権団体が報告している。

5月5日、エスカレートする治安部隊の暴力に対して、裁判官・検察官が「過剰な国家暴力に抗議する方法として、すべての裁判所は機能を停止することを決定」とストライキを表明し、全国紙が報道した。また反政府ゲリラFARCと政府間の和平合意に基づいて設置された武力紛争期の人権侵害に対応する「和平のための特別法廷（JEP）」も、政府の暴力を非難し、「人権侵害の耐え難い実態が明らか」と声明を出した。一連の政府による「過剰暴力」に対して、国連、米州機構など国際社会も厳しく非難した。

一方、デモ参加者の一部による商店や銀行への略奪が起きている。大規模な反政府デモはこれまでも毎年あった。そのたびに都市部で略奪がおきており、デモ参加者を嫌悪する一般市民は一定数存在してきた。市民の感情も対立する中で、デモを支持する人々、政府の行動を支持する人々の双方が、それぞれ切り取った激しい暴力映像に、それぞれの立ち位置からメッセージをつけ、SNSで拡散した。その中には場所や日時が特定できないものや、フェイクニュースも含まれていた。不安とともに増殖される対立感情から、市民に分断が起きている。

一連の衝突の中で、民間人によるデモ隊への銃撃が、複数回確認されている。デモに反発する市民が、個人で所有する武器を使って、治安部隊支援に動いていると報道された。背景には、市中で違法流通している銃の存在が指摘されている。例えば、激しい衝突が続くカリ市では、今回のデモが起きる以前から、月平均数百丁の銃が押収されていたという。

6月9日、デモ隊を銃撃した民間人とされる人物が検察に出頭した。ほかにも同様の容疑者がいるとされ、彼らのデモ隊への武器使用を黙認した警察官が捜査対象となっていると、検察が発表した。

2 税制改革案

政府による財政改革案の内容に関して、国内外の各報道をもとにして整理したい。

中南米・カリブ地域は、世界で最もコロナ禍による被害が大きい地域の一つだ。IMFによると2020年の地域全体のGDP成長率はマイナス7%とされる。コロンビアも過去最大の景気後退を記録し、昨年は、前年比マイナス6.8%に及んだという。今回の政府の税制改革案は、財政改善や社会支援プログラムに向けた約63万ドルの資金調達を目的としたものだった。

改革案で最も議論を呼んだのは、2022年から月収約663ドル以上の人の所得税申告を義務化したことである。2023年はこれを470ドル以上へと引き下げて、徴税の裾野を広げる計画だ。社会全体が厳しい状況にあるなかで、中間層に対しては継続的な負担を求める一方、富裕層に対する課税は時限的だ。富裕層への新税として、135万ドル以上の資産を持つ人に資産の1%、400万ドルを超える人々に2%の課税を、2022年と2023年の2年間にかけ行うとした。

また低所得層にのしかかっているのが、対象項目を増やす19%の付加価値税だ。これまで非課税だった水道、電気、ガス、その他の基本的な消耗品にも、これを課すとした。ガソリ

ン・軽油の増税、商品梱包に使われるプラスチック製品への新税も反発を生んだ。

今回の改革案は、徴収額の74%が個人からだという。中低所得者層へのダメージが大きく、企業や富裕層への負荷は限定的だとされていることに対して、政府支持者からも厳しい批判が飛んだ。

3 デモ隊の要求

ストライキ委員会は政府に対して、ベーシックインカム導入、中小企業への補助金、教育費の無料化などを要求している。また同様に抗議活動に参加する先住民族組織は、地域で起きる武装組織の対立、住民虐殺、社会活動家の暗殺など、治安対策を求めている。

今回の背景を考える上で重要なことが、終わらせられなかった武力紛争だ。2016年、政府は半世紀以上対立した反政府ゲリラFARC（コロンビア革命軍）と和平合意を結んだ。これにより期待された平和はまだ実現されていない。現在、軍事組織としてのFARCは武装解除し解体されたが、その一部が再武装し、ほかにも存在する複数の違法武装組織を政府はコントロールできていない。支配地域を広げる組織同士が対立し、農村が深刻な危機に立たされている。

「集団虐殺（同時的に3人以上が殺害されること）」に関する統計がある。2020年には、全国で91件の集団虐殺により381人が犠牲になったという。2021年は、5月3日までに35件、犠牲者は132人とされる。また2016年以降、問題を告発する地域リーダーが、年間300人前後も暗殺され続けている。国連によると、こうした暴力による国内避難民は、2020年は年間2万3861人に上った。

4 和平合意履行の要求

2016年に結ばれた和平合意には、紛争地域支援として、紛争の原因となった格差是正を目的とする地域開発、麻薬対策が盛り込まれ、政府が取り組むこととされたが、滞っている。

コロンビアのシンクタンク「PARES」によると、政府による農村開発計画（PDET）は汚職や予算不足により滞り、格差問題と密接に関わる麻薬問題対策も同様だという。コロンビアはコカイン生産、原料のコカ栽培ともに世界最大だ。社会インフラが未整備の地域で、交通網や市場の欠如などから、価格が安定するコカ栽培に依存する住民がいる。麻薬は武装組織の資金源になる。和平合意では問題解決の両輪として、農村開発と、違法作物から合法作物への代替えを政府が支援するとした。しかし代替え計画（PNIS）も予算不足から停滞している。

全国紙 *El Tiempo* によると、2021 年、PDET は必要とされる予算の 4% のみ確保され、PNIS も同様に 16% にとどまっている。予算不足はコロナ禍以前からの問題だ。前述のシンクタンク PARES は、政府が履行すべき計画が停滞する背景に「政府の怠慢、政治的意思の欠如、官僚的障害」をあげる。問題解決の枠組みだけが作られ、実行するための中身が欠如している。

住民への支援が滞る中で進んでいるのが、治安部隊によるコカの強制除去である。ほぼ唯一の収入源を補償なしに奪われ反発する農民と治安部隊が衝突する。2017 年 10 月ナリーニョ県で、抗議する農民 7 人を治安部隊が殺害し、20 人が負傷する事件が起きた。政府はさらなるコカ除去のため農薬グリフォサート散布を承認した。その強い毒性から健康・環境への影響が危惧される。

5 政治家の存在

2022 年、コロンビアでは 4 年に一度の大統領選挙がある。

地元紙 *El País* は「コロンビアのすべての政治家は、選挙のためのあらゆる計算を脇に置き、国民に対し責任を果たすべき」と、混乱の中で国民が対立する状況を政治的駆け引きに利用する政治家の存在を指摘する。

保守系メディア *W Radio* によると、ドゥケ



武装解除に臨む元 FARC 構成員たち（2017 年）

大統領の不支持率は、今年 1 月の時点でも 68% の高率だったが、6 月になると 72% までに悪化している。デモ隊への過剰暴力が大きく批判されているが、以前から極めて低い支持率の中で国民が対立する状況を政治的駆け引きに利用してきた政治家の存在を指摘している。

現大統領ドゥケの後ろ盾でもあるアルバロ・ウリベ元大統領は、自身が違法組織との癒着や汚職を追求される中で、デモ参加者に見られる暴力行為を「社会主義者」と結び付ける発言を繰り返している。都市部に見られる「社会主義」へのアレルギーを刺激し、左派系の大統領候補者を牽制している。ウリベ氏の偏った発言は「暴力を扇動する」とし *Twitter* 社に投稿を削除された。

前述の *El País* は、「現大統領の不人気は選挙で不利になることを恐れて、代名詞である強行姿勢を貫こうとしている」と、かつてタカ派で支持を集めたウリベ氏のことを表した。

大統領候補の中で高い支持を集めている左派のグスタボ・ペトロ氏は、自身の SNS で治安部隊によるデモ隊への激しい暴力映像を繰り返し拡散し、市民の対立感情を煽っている一方で、「私は暴力行為に与しない」という意味の発言をすることでバランスを取ろうとしている。

長年放置されてきた社会問題にコロナ禍がのしかかり、政治家がその状況を利用する。混乱は今も続いている。

コロンビアに住んで 44 年

高橋 弘昌

コロンビアに住んで 44 年、これまで様々な危機を潜り抜けてきた。

世界でもっとも危険な国と言われていた頃、首都ボゴタの繁華街で酒と博奕の日々に明け暮れた。チンピラと切った張ったを演じ、ナイフで切られたことがあれば、至近距離から拳銃で撃たれたこともある。日本人の事業家に騙され、有り金を取られ、それが理由でコロンビア人の妻と離婚したのが原因だった。毎日のように荒れてボゴタの繁華街をさまよっていた。当時は昨今のように日本人が住んでいなかったから、おかげで警察や軍に顔をよく覚えられた。

そんな時代以上の危機がやってくるとは思ってもよらなかった。コロナである。これを書いている 2021 年 5 月末現在、感染者の合計は約 338 万人、死亡者は約 8 万 8200 人。挙げ句、日本でもニュースになっていると思うが、5 月には増税案を機に全土で暴動が発生し、過激な反政府デモが日常的におこなわれている。警察署は 100 ヶ所以上が襲撃され、駅も 50 ヶ所以上が破壊。死者と行方不明者も多数出て、統計が追いつかないほどだ。

かつてコロンビアではゲリラと麻薬テロが猛威を振るいこの国を根幹から揺さぶったが、コロナはこれまでの国家危機とは性質が違い、どうしても太刀打ちできない。創業 45 年目のうちの店も、国からの要請で開けたり閉めたり様々だ。行く先が不透明な昨今だが、この機会に、これまでの 44 年を振り返ってみようと思ひ筆を取った。齢 78 歳、一膳飯屋の駄文を、ご笑味ください。



私が日本を発ったのは 1968 年である。300 ドルを持って船でロシアへ。今で言うバックパッカーというやつで、当時はヒッピーといった。昨今のバックパッカーと違うのは、当時、日本はまだ先進国じゃなかったから、ヨーロッパの一部やアメリカで働いたほうが稼げた時代なんだ。うちらヒッピーは稼ぎながら旅をした。スウェーデンでの柔道トレーナーを皮切りに、ロンドンの高級レストランと続き、アメリカのストックトンでは創業したばかりの和食店「米田レストラン」に勤務した。アメリカにおける「日本料理の父」と言われた天才料理人、米田邦夫（元日本調理師連合会・米国支部長）の元で働いたのは僥倖だった。のちに、コロンビアで店を開けるときも、このときの体験が自信になっている。その後、当時アメリカンドリームの真っ最中だったニューヨークのレストランを転々とし、中南米への旅を始めた。コロンビアのポパヤンという街でコロンビア人の女性と恋に落ちて結婚、1977 年にボゴタに「侍や」を創業したというのが私の大ざっぱな略歴である。

今のようにスマホもインターネットもない。「地球の歩き方」だってなかったんじゃないかな。そんな時代にコロンビアと言われてもピンと来なかった。でも、結婚してこの地に住もうと決めたのだから、稼いでいかなくちやならない。昨今なら日本語教師とか JICA とかいろんな選択肢があるのだろうけど、まだまだそんな時代ではない。私ができることといえば、料理しかなかった。当時、ボゴタに日本人経営による日本食レストランは存在しなかった。(それ以前には2軒あった) これはチャンスだと思い、起業することにした。

そうと決めたら行動は早かった。生まれたばかりの男の子と妻をコロンビアに残したままニューヨークへ向かった。日本食レストランを起業するための資金を稼ぐためである。2年近く働き三万ドルを稼いだ。今日の貨幣価値でいえば1千万円近くになったのではないだろうか。

ニューヨークで知り合った日本人から、「コロンビアで起業するなら河合さんに会ったほうがいい」と言われていたので、私はコロンビアに戻るとすぐにコンタクトを取った。当時、コロンビアで飛ぶ鳥を落とす勢いだった初代エメラルド王・河合誠一氏だ。河合さんの知遇を得られたことも、コロンビアで生きていくうえで大きな財産となった。店のお客さんにもなってくれて、私はずいぶんと可愛がってもらった。

創業地は当時のボゴタでもっとも華やかだったセントロ(旧市街地)の高級ホテル「テケンダマ」の近くのビルの一室。こうして資金と場所が決まったものの、日本食を提供するうえで大事なものを恒常的に仕入れるにはどうすれば良いか、という問題があった。味噌と醤油である。

そのとき、私は思いついた。日系移民のコミュ



ニティに行けば手に入るかもしれない。中南米への移民といえば、ブラジルやペルー、キューバやドミニカなどが有名だが、コロンビアにも日本からの国策移民があった。1929年(昭和4年)、1930年(昭和5年)、1935年(昭和10年)の3度に渡って実施されている。延べ159人、大半が福岡県の出身でカウカ県のハグアルという地に入植した。

彼らなら醤油や味噌を作っているのではないかと。当時、日系コミュニティの中心はそこから北へ40キロほど離れたパルミラという街に移っていたが、私はボゴタから単身、300キロ近く離れたパルミラに乗り込んで尋ねて回った。そしたら案の定、醤油も味噌もあった。以降、仕入れに成功して様々なネットワークが出来た。

そうして1977年に夫婦で「侍や」を創業した。以降、低空飛行を続けながら2021年の現在も続いている。当時も今も従業員をたくさん使う店ではなく、個人経営に毛が生えたレベル。今は後妻と従業員一人と共に店を切り盛りしている。

当時の看板メニューは、天ぷら、照り焼き、すき焼き。寿司もやったけど、そのころ手に入る鮮魚といえば、スズキとタイぐらいだった。寿司ブームは90年以降の話だから、最初の頃は苦労した。今だから言えるけど、スズキ一匹で、背の部分、血合いの部分、腹の部分というふうに分けて、あたかも三種類の刺身を出しているように見せたこともあった。そういう演出が必要な時代だった。日本食に必要な食材がおいそれと手に入らなかった。とにかく試行錯誤の日々だった。

創業当時のメニューと大ざっぱな金額は、例えば天ぷら（スズキ・じゃがいも・にんじん・タマネギなど）が約600円、照り焼きが約500円、すき焼きが約600円、カツ丼が約500円、煮込みうどんが約500円ぐらいだっただろうか。昨今はプラス300円ぐらいのイメージ。近年の人気メニューはラーメンで、「侍や弁当」というものも出している。中身は煮魚、照り焼き、寿司、鶏の唐揚げ、煮物、酢の物、ご飯などで、全部で15品ぐらい。ボリューム満点で日本の若いお客さんも喜んでくれている。

また、世界的な寿司ブームがコロンビアにもやってきた頃には寿司教室も始めた。ボゴタのイタリアンやフレンチのシェフたちが習いに来てくれた。テレビの料理番組や雑誌の料理特集にもよく呼ばれた。日本人がコロンビアに住んでいるのが珍しい時代だったから、映画やドラマ、テレビCMにも出た。また前述したように高級ホテルのすぐ近くだったから、コロンビアの政財界の大物から日本人のバックパッカーまで客層は様々だった。

コロンビア人の従業員もずいぶんたくさん使ってきた。コロンビア人は愛想がよく器用でよく働



くほうだと思う。とはいえ、何かミスをしたときに、自分の非を認めない局面がしばしばある。私はそのたびに聞かされる言葉がある。「Yo soy yo」。直訳すると「私は私」だけど、ようするに、私は悪くないという意味なんだ。これで私は何度も衝突してきた。天ぷらを揚げるのに失敗した従業員の中には、「悪いのは私ではなく油のせい」と言う人もいたほど。

コロンビア人の多くがなぜそんな調子なのかと言えば、飯を食うことに自信があるからだと思う。日本人にはあまり信じられないかもしれないけれど、実はコロンビアでは「餓え死ぬ」ということがほとんどない。これは40年以上この国に住んできて、つくづく思ったこと。地方に行けばプラタノ（食用バナナ）やユカ（キャッサバ）などの作物が豊富で、都市で浮浪者になっても、飲食店を回れば飯が食えてしまうんだ。

創業してから店は三回場所が変わっているけど、前述したように最初の店はセントロ（旧市街地）。だから浮浪者がよく物乞いにやってきた。ところが、私が焼き魚の食べ残しを出すと、「こんなものを食えるか！ もっといい物を出せ！」と怒る浮

浪者もいるんだよ。食が有り余っている国だから、プライドを捨てれば食えてしまうんだ。日本人には信じられないかも知れないが、一人あたりの所得は少なくとも、作物や地下資源は豊富にあるんだよ。金持ちというのは、金融資産に限った話ではないと私は思う。作物や地下資源が豊富なコロンビアは、ある意味日本より金持ちかもしれない、と思うことがあるほどだ。



さて、こうしてコロンビアに45年、根を張ってきたがうちは大きな店じゃないから、家族が食うのに精一杯。数年前に息子がようやく大学を卒業したが、コロンビアの大学の学費はとても高く、ようやくローンを払い終わったばかり。税金も健康保険も高く、固定資産税や都市計画税なんて、年度によっては前年の倍以上になることもある。44年間、まるで宮本武蔵のような気分で異国の地で一人、戦ってきた。日本へは一度も帰国していないから、ロビンソン・クルーの漂流記じゃないが、1968年に旅に出て以来、今もって漂流中。それでも息子が社会人となり、私もようやく少し楽になるかな、と思ったところへコロナだ。

細かな時期や数字や内容については大ざっぱに書くが、2020年3月上旬に初の感染者が確認されると、3月末には全土でロックダウンに入った。飲食店は営業禁止、外出も禁止に。日用用品の買い物や病院などへ行くための外出は認められていたが、日本でいうマイナンバーカードの末尾の偶数と奇数で外出できる日を決められたりもした。70歳以上外出禁止のときもあれば、男女別に外出を認められたときもある。飲食店もテイクアウトだけが認められた時期もあつたりして、国の対応は目まぐるしく動いていた。

これらを見捨てて外出すると懲役や罰金刑を受けたが、結構多くの人々が普通に外出していた。8月からそれらが一気に緩和されてようやく店を開けると、最初の1週間は待つてましたと言わんばかりに多くのお客さんが来てくれた。以降はテイクアウトと細々とした店舗営業(21時まで)で何とか凌いでいる状況だが、正直売り上げはコロナ前より断然落ちている。

しかし、だからと言ってネガティブな思考には陥りたくない。人間万事塞翁が馬で、これから何が起きても、コロンビアで家族や友人を持ったこと、コロンビアで店を開けたことが最高に幸せだったと思っている。

そして、これからも私はこの地で皆さんを待ち続けます。いつか、皆さんとお会いできる日を楽しみに、筆を置きます。

(北澤豊雄さん編集)

(コロンビア日本食レストラン『侍や』店主)
侍や (Samurai-ya)
Car 49b No.171a-88 Villa del Prado-Bogota
Tel. 347-2264 (定休日は月曜・祝祭日)

ボリビア。他のどの地域よりも心ひかれるのに、日本を出る頃、知っていることと言えば、ゲバラがゲリラ戦を戦い、政府軍に捕らえられ、そこで最期を迎えたこと、錫の鉱山があり、鉱山労働者の運動が盛んであること、そんなくらいのことでした。メヒコ滞在からボリビアへたどり着くまで 2 年近い時間がたったのに、基本的にはそれ以上の知識もないまま、ペルーからチチカカ湖畔の道沿いに私たちはラパスへ向かいました。ほとんど草も木もみえない荒涼としたアルティプラーノ、高原をバスは走ります。どんな所だろうと、期待と緊張を覚えます。

オテル・アルヘンティーナの市

ラパスではオテル・アルヘンティーナというバックパッカーがよく泊まるところに宿をとりました。広い中庭を囲んで、扉しかついていない暗い小さな部屋が連なっている古い木造の建物です。広い中庭は、小売りと卸売が混じって、たくさんの穀物やジャガイモ、野菜に果物、ナッツ類、ないものはないと言えそうなほどの品ぞろえ、そして屋台の食堂でゴった返しています。ペルーからこちらよく使われているのは、リヤマの毛織の袋です。丈夫で長持ちするこの袋を、これもまたリヤマの毛で作った紐でくくり、額からかけて背負っている姿もよく見かけました。

この宿は、メルカード・ネグロと呼ばれる日常のものならほとんどなんでも揃う大きな市場の近くでもありました。このリヤマの毛の紐を額にかけて荷物を運ぶ人が何人も行き来しています。荷物運びや、買い物の手助けをして小銭を稼ぐ子どもの姿も見かけます。ジャガイモや野菜、唐辛子や香草、小さな鶏や子豚の肉を売っている人が道路の端に毛織の布を広げて座っているのもこのあたりです。このあたりはすり鉢のような形をしたラパス市の上の方にあります。ラパス市は標高の低い方へいくにつれ、高級住宅街になり、大企業の立ち並ぶ中心街になります。このころはまだこの宿のあたりからもっと上の方はまだそんな



アピ (<https://www.cocina-boliviana.com/>)

にたくさんの人は住んでいなかったようです。

最初は軍政下のボリビアということで緊張していたのですが、すこしずつ慣れてくるにつれ、出会う人びとの優しい話し方、穏やかな態度、ちょっとした心遣いであって、ボリビアが私にとってとても親しい懐かしい地になっていきました。標高 4000 メートルもある高地を一日歩き回って疲れ、屋台に腰かけてコーヒーを頼むとき、まるで古くからの知り合いのように、疲れたでしょう、熱くしてあげるからちょっと待ってね、と声を掛けられるときの嬉しいこと。心優しい人びと、というのがわたしの最初の印象です。

ウカマウのホルヘ・サンヒネス、ベアトリス・パラシオスと知り合っていたとはいえ、彼らの知人を訪ねることは、彼らにも危険が及ぶ可能性もあり会うことはありませんでした。

ボリビアの食

この宿でバックパッカー同士の連絡ボードみたいなものがあり、売りたい、買いたいという品物のなかからケロシンコンロ、登山用コンロみたいなものですが、それを見つけ、いったい幾らくらいだったのかは覚えていないのですが、それを購入しました。煮炊きができることは、わたしたちの経験をととても広げてくれました。この中庭で知らないものを見つけ、これはどんなふうに料理するのか尋ねれば、だれでも喜んで教えてくれます。

いまでもとてもなつかしいのは、アピといったように思うのですが、乾燥させた桃の実の粉、カネラ (シナモン)、パネラ (黒砂糖) を混ぜ、とうもろこしのでんぷんでトロミをつけた温かい飲み物です。とてもポピュラー

な飲み物で、屋台でもよく売っています。でも、自分で作るというと、なんだかよそ者から一歩近づいたような笑顔が向けられ、どうしたら美味しいかとか、隠し味はこれだとか、そんな話からどこから来たのかね、何をしているのかね、それなら、どこそこへ行ってみたいとか、つぎつぎと話がほぐれていきました。

アンデスならでの食べ物、ジャガイモを凍らせては解凍して水を絞り出し、また凍らせては解凍して水を絞りという作業を重ねてカラカラに乾燥させたチューニョの食べ方は何度か教えてもらったのですが、小さな鍋ひとつしかないわたしの「台所」では、とうとう作れませんでした。それでも中庭の食堂では、チューニョを入れたスープを何度も食べ、アンデスの味を楽しみました。

もうひとつはジャガイモと同じくらい欠かせないキヌアです。これもたっぷりの水でもどしてスープに入れたり、肉料理の付け合わせなどに使われ、食べない日はないくらいポピュラーです。そしてエンパナーダ。粉をこねて皮を作り、そのなかに煮凝り状にしたジャガイモや玉ねぎ、肉いためを入れて焼いたものです。かごのなかにエンパナーダを入れて売っている女性がたくさんいました。

市場はいつでも楽しいことに出会う場所でしたが、牛肉を買うときだけは、実に閉口しました。そのころ肉を買うとすると、必ず骨も同時に買わなくてはいけないと強要されるのです。そういう決まりができた、不機嫌な口調で言われたのを覚えています。小さな鍋しかない私たちには、どんなにがんばっても大きな骨1本を処理しきれなくて、お願いだから、お金は出すからと言って置いてくるしかありませんでした。

町の祭り

ある日、アチャカチという町のお祭りを見に行きました。華やかな隈取をした仮面をつけ、豪華な衣装をまとって道一杯に広がる踊り手たちがつぎつぎに現れます。わーっと歓声があがり、踊り手たちはそれに、さらに力強くステップを踏んでいますし、楽隊の音は興奮をあおり、ただ見ているだけではおさまらないような気分が高まっていくようです。夜になると、アルコールの瓶を手に、たくさん



アチャカチの祭 (<https://www.achacachi.com/>)

ひとたちが手をつないで波にゆれるように動き、踊ったり飲んだり、のちにウカマウの映画で見ることになる場面がそこで展開されていたのです。

メヒコでもどこでもお祭りはよく見に行きましたが、こんなふうには誘い込まれるような気持ちになるお祭りははじめてでした。アンデスの人びとは血のなかに音楽を持っているという表現にであったことがあります、本当にそうです。どんな場面にも音楽が出てきて、人びとはそれに合わせ、自然に身体が動いていくようです。ほんの立てるようになってばかりの赤ちゃんが母親に手を支えられて、リズムを取っている姿の可愛らしいこと！

アチャカチから帰るバスのなかで、私たちに話しかけてきた人がいました。小柄な中年のペペと名乗る人です。くちひげがなんとなくユーモラスで、日本人かね、旅行かね？どこに宿をと、気さくに話し、今度家に来ないかね、と誘ってくれるので、ホテル・アルヘンティーナに泊まっているということ、数日後、ホテルにやってきて食事に誘ってくれたのです。

弁護士だというペペの家は中心街にあり、古い植民地時代の建物だと思うのですが、よく磨かれた柱や扉など丁寧に使い込まれた由緒ある雰囲気を持っています。パパは日本人が好きなのよ、と、娘さんたちは笑っています。その後も何度も誘ってもらい、私たちが日本料理を作ったりして親しくなっていました。

ある日、ペペがいまミラフローレスに家を建てている、まだその家は完全に完成していないけれど、安全に住めるまでにはなっている。あなたたちがもうすこしボリビアに滞在したいのなら、そこに住んだらいいと誘ってくれたのです。ありがたくその申し出を受け、私たちはラパス滞在を伸ばすことにしたのです。

轟音の記憶

ブエノスアイレス (BsAs) 市北部の、巨大な体育館だったか、倉庫だったか、記憶は定かでない。何百もの座席を内外記者たちが埋め尽くしていた。私は早めに着いたつもりだったが、最前列から10列ぐらい後方に空席を見つけるのがやっとだった。

1972年11月のこと。当時、ラ米全域をカバーする通信社記者として墨都に常駐していた私は、17年ぶりに亜国に一時帰国する元大統領フアン＝ドミンゴ・ペロン退役陸軍中將(「ペロン」と発音)の動向を取材しに特派され、記者会見場に居たのだった。

老境にあったペロンは、自派正義党の幹部らを引き連れて姿を現し、着席し話し始めた。とたんに、ジェット戦闘機数機が上空を低空飛行する轟音が会見場を揺さぶった。

当時のアルゼンチンは1966年から軍政下にあったが、ゲリラ活動の激化や経済不調で国中が混乱していた。時の軍政大統領アレハンドロ・ラヌーセ将軍は、亜国を救うには、スペイン亡命中のペロンに政権を託すしかないと決断、その帰国を求めたのだった。だがラヌーセは、ペロン復権に反対するカトリック教会、農牧業界、海軍を中心とする軍部右翼に配慮し、戦闘機の轟音でペロンを見舞い、牽制したのだった。

ペロンは笑顔で「おお、何とやかましいことよ」と言い、両耳を塞ぐ仕種をした。会場は拍手に包まれた。大役者ペロンは、軍部を軽くいなしたのだった。

この光景を観ていた私の脳裡に甦ったのは、今から66年前の1955年6月16日に起きた惨劇だった。政権担当10年目を迎えていた当時のペロン大統領の下、国内総生産(GDP)の実に53%は労働者階級が握っていた。正義党の中核は労働総同盟(CGT)で、政権と一体化していた。富裕層、保守・右翼勢力はペロンを憎悪していた。

信じがたいことだが、軍部内反ペロン派の中心にあった海軍と一部空軍は、軍用機30数機の編隊で午後零時40分から約5時間に亘り、BsAs中心部の五月広場と、その正面にあるカサ・ロサーダ(大統領政庁)一帯を空爆し、機銃掃射を浴びせたのだ。投下された爆弾は10トンに及ぶ。常軌を逸したこの攻撃で市民ら約350人が殺され、1,000人近くが負傷した。最重要の標的だったペロンは、近くの陸軍省に避難し無事だった。

海軍をはじめ軍部右翼は、教会や農牧業界と結託してクーデターを謀ったのだが、陸軍が動かず不成功に終わり、首謀者や爆撃した将校らは、隣国ウルグアイ

のモンテビデオに亡命した。だが事件3か月後の55年9月、ペロンはついに軍部に追われて国外に逃れ、フランシスコ・フランコ体制のスペインに亡命者として迎えられる。

私は大学時代にラ米情勢の勉強を始め、この爆撃事件を知っていた。ペロンは両耳を塞ぐ仕種を見せたとき、五月広場の惨劇を思い出していたのではなかったか。

ペロンは、アルトゥーロ・イリア大統領の民政期の1964年に帰国を試み、リオデジャネイロに飛んだ。だがイリアに帰国を拒否され、同年のクーデターで政権に就いていたブラジル軍部によってマドリーに追い返された。1972年に叶った帰国は、「救世主」として軍部に求められての帰国であり、元大統領は感慨無量だったに違いない。

私は、質問するため挙手し続けた。それに気づいたペロンは私を指した。私は、ペロンが第2次世界大戦直後の政権期に打ち出した「第三の道」という外交方針について訊ねた。この政策にはムソリーニの影響も見られたが、ペロンは「第三世界」という概念が打ち出される前に掲げた「第三の道」を誇り、外交路線として依然有効だと答えた。

ペロンは2021年6月現在の私と同じ77歳だった。糖尿病や内臓疾患に激務が加わり、体調は悪化していた。1973年6月、18年の亡命生活を切り上げて帰国し、同年9月の大統領選挙に得票率62%で「遠い3選」を果たし、78歳になった10月、政権に就いた。夫人のマリーア＝エステル・マルティネスを副大統領として伴っていた。

ペロンは「第三の道」路線を実行、軍政が断交していた社会主義キューバのカストロ政権と友好関係を樹立し、大型経済援助に踏み切った。

だが南米は1973年9月11日のチリ軍事クーデターに象徴される反共軍政期に既に突入していた。ペロンは1974年7月1日、78歳で病死、夫人が大統領に昇格する。亜国初の女性大統領だったが、統治能力はなく、大混乱の裡に1976年3月の軍事クーデターに至る。首謀者の一人エミリオ・マッセラ海軍司令官は、青年将校期に五月広場空爆に加担していた。1983年まで続いた軍政下で市民ら3万2000人が抹殺された。軍政の谷間に3年間返り咲いたペロン派民主政権は徒花だった。

私の右手には、握手した肉厚の熱いペロンの手の感触が残っている。

梅 の デ ザ ー ト

Dulce de ciruela Japonesa

ソマリサの読者のみなさんこんにちは。暑い季節、汗で失った塩分を補給するために、しょっぱい梅干しが最適です。

日本では6月から梅の収穫がはじまっていますが、メキシコ、とくにユカタン半島では、梅の仲間である幾種類ものプラムやスモモが実ります。酸っぱくて、日本の梅にちょっと似ているプラムもあります。

ユカタンでは、実が青くて未熟なうちは、塩と唐辛子の粉末などといっしょに食べます。

熟した果実は皮も含めて丸ごと食べるし、シャーベットやアイスクリーム、アイスキャンディもつくります。夏になると梅(プラム)を使ったデザートもよくつくります。今回のデザートもとってもおいしいですよ。

マヤの人たちは昔からプラムのデザートを、蜂蜜といっしょに食べていました。現在は、蜂蜜は高価なので、サトウキビからつくった砂糖を使うようになっています。

私が子どものころ、母はいつもプラムのデザートをこしらえ、私たち兄弟は、昼食や夕食

材料 (4人分)

- ・梅 20個
- ・蜂蜜 100グラム
- ・水 1リットル



の後やテレビを見るときにそれらを食べるのを楽しみにしていました。今回は、プラムの甘いデザートを、丹波篠山で買った日本の梅でつくってみます。

作り方

- 1) 爪楊枝で、梅のへたの黒い部分を取りのぞき、よく洗う。
- 2) 梅を鍋に入れ、30分ほどゆでる。
- 3) 蜂蜜を加え、弱火でペースト状になるまでゆでたらできあがり。

(1) AML0 のマヤ民族への謝罪式

2021 年 5 月 3 日、キンタナロー州カリージョ・プエルト市で、メキシコ大統領ロペス・オブラドール (AMLO) 主催のマヤ民族への謝罪式が行われた。マヤ民族が居住する南東部 5 州の知事やグアテマラ大統領が参列した式典は、「植民地期と独立後にメキシコや外国の個人・当局が犯した恐るべき不正行為」に関してメキシコ政府がマヤ民族に公式に謝罪するものだった。謝罪した不正行為は、スペイン征服植民者の殺戮弾圧と 19 世紀半から 50 年以上続き 25 万人超の犠牲者がでたカスタ戦争である。

AMLO は、2021 年の「メキシコ征服 500 年、独立 200 年周年祝典」で謝罪式実施の方針を 2019 年 3 月末に表明していた。謝罪式という発想は、2019 年 3 月初頭にスペイン国王とローマ法王宛に、スペインや教会が関与した一連の不正義に関する許し (perdón) の意を表明してほしいという書簡を送ったことに由来する。その依頼を正当化するため、メキシコ政府も公式謝罪すると確約したのである。

政府の謝罪対象は、マヤ民族とソノラ州の先住民ヤキを対象とした 19 世紀後半の「カスタ戦争」と、メキシコ革命期の中国人殺害行為だった。2 週間後の 5 月 16 日、コアウィラ州のトレオン市で、1911 年 5 月に起きたマデロ派革命軍部隊による中国系住民約 300 人 (全体で 700 名) 殺害に対する謝罪式が行われた。ヤキに対する謝罪式は 9 月予定とされている。

この謝罪式では、現在進行中の強権的な不正義のことは完全に無視されている。政権がユカタン半島で推進する開発事業に反対するマヤ系先住民組織は、マヤ鉄道建設計画を「征服」の 21 世紀版である不正義と指摘している。



カスタ戦争マヤへの謝罪式 中国人殺戮への謝罪式

(2) 絶滅政策が先住民へのワクチン接種阻害

ブラジルの先住民はワクチン接種ペースが遅く、先住民コミュニティが取り返しのつかない損失を被るリスクが高まっている。10 万人あたりの感染者率 (平均 8,972) と死者率 (平均 252) の上位 5 州のうち 4 つはアマゾン地域にあり、これらの州のワクチン接種は大きく遅れている。先住民率 12.5% のロライマ州は、感染者率 18,779、死者率 291 で、接種率は全国最下位であり、先住民率 5.2% のアマゾナス州は、感染者率 9,773、死者率 322 で、接種率は 17% と全国平均 39% を大きく下回る。

先住民連合のロビー活動や訴訟によって、裁判所は先住民を優先的に予防接種プログラムに組み込むよう政府に命じていた。だが、保健省が 12 月に発表した計画では、認定された先住民領域の先住民だけが対象とされた。先住民は 41 万人が先住民領域、約 50 万人が都市や非居住区に住み、国内先住民の半数以上が実質的に除外されていた。また、境界画定未了の領域にも一時的に先住民領域の地位を与える保護措置が停止されたため、未接触部族が確認されている 7 領域の保護期限が切れると、非接触民族のグループは危険にさらされる。

ロジスティックスの問題を先住民領域のワクチン接種の遅延の理由としてはならない。ロライマ州のヤノマミの領域 (2.7 万人) は、土地収奪者やガリンペイロスが持ち込んだ新型コロナウイルスで、1,600 人の患者が確認され、13 人が死亡したとされる。ヤノマミは比較的人口が多いが、多くの先住民部族は長老が数人しかおらず、ワクチンが早く届かないと永遠に消える危険性がある。

ブラジル社会環境研究所は、ワクチン接種の

遅延は、先住民がもっとも多いアマゾン地域の開発を進めるボルソナロ大統領の先住民絶滅政策の一環であると指摘する。



マスクをつけるヤノマミ

(3) 多民族国家にむけて—チリ制憲会議

5月15・16日に実施されたチリの制憲会議代議員の選挙は、投票率は41.5%と低かったが、チリの政治史の大きな転機を告げるものだった。その結果は、従来の議会の党派構成と大きく異なるものだった。無党派48、左翼連合（共産党・拡大戦線）28、中道・中道左派（キリスト教民主党・社会党）25に対して、政権党連合（保守・右翼）は37（24%）にとどまり、新憲法制定に対する拒否権行使に必要な3分の1の代議員を獲得できなかった。

この選挙では、2020年3月と12月の合意により男女対等割当と先住民族指定枠の原則が適用された。その結果、先住民族指定枠の17名と小選挙区選出の4名、計21名の先住民代議員が誕生した。先住民族指定枠17名は、マプチェ7、アイマラ2、ディアギタ、ケチュア、アタカマ、コヤ、ラパヌイ、カウエスカル、ヤガン、チャンゴ各1名となっている。先住民族指定枠に、マプチェの全大地協議会、マプチェ領域同盟、アラウコ・マレコ調整委員会、ウェイチャン・アウカ・マプなどは、先住民族の集団的権利に否定的な中道ブロックが優勢として参加しなかった。

政治勢力の多様化のもと開催される制憲会議は、先住民族が初めて政治プロセスの主人公になる場でもある。先住民族の代議員は、新憲法に多元的な内容を与え、チリ国家を変革する主要な問題に先住民族のビジョンを組み込む義務がある。すなわち、先住民族の自治権の範囲、政治的代表的権利のあり方、先住民事前協議の憲法化、法的多元主義、領土権、文化的権利、言語的権利の保障、自然の権利の保護である。

7月4日、制憲会議の議長には、2回目の投票で96票を獲得したマプチェのエリサ・ロンコンが、政権党連合候補（33票）を大差で破って選出された。マプチェ民族旗のデザイン制定にも参加した大学研究者の彼女は、マプチェ首都圏地区から選出されている。今後の制憲会議運営は多くの障害が予測される。彼女の議長就任演説は、<https://youtu.be/NAyy88Gk7WE> で閲覧可能。



民族旗をもつエリサ・ロンコン

出典：
<https://bit.ly/3frjmfw>

(4) マヤ女性織り手の創造品を守る運動

21世紀に入ってから、グアテマラのマヤ女性たちは、先祖伝来の知識や織物など創造品の保持者としての集団的権利の認知を求めて運動を展開してきた。2016年に誕生した女性織り手全国運動（Movimiento Nacional de Tejedoras, MNT）には、18のマヤ系言語グループに属する約30の組織が参加している。

2017年2月、国内の25の先住民女性組織が創造品の集団的知的所有権の保護を求めて、刑法、著作権関連法、民芸品の保護・発展に関する知的所有権法に関する法改正の申し立て（法イニシアティブ5247号）を行った。同年8月、国会立法委員会で始まった審議はほとんど進捗していないという。

同年7月、MNTは、ネット通販企業がマリア・チュラ（María Chula）という先住民女性の尊厳を侵害する名称を用いて、「マヤ・ウィピル」を販売していると告発した。マリアという語が先住民女性の個性を無視した差別名称である歴史に無自覚だったと、企業創立者の女性は公式謝罪を行った。だが、非先住民の反応は、先住民族の権利と織物を守るという集団的知的所有権に関する理念との隔離を改めて浮き彫りにした。女性たちが作った織物の端切れをバッグなどに再使用した「マヤ風民芸品」の製作が成長しているが、生み出された利益は女性や共同体に還元されていないことは無視されている。

MNTは、告発や法律の提案、織り物デザイン教室の設立などとともに、生活基盤である共同体の自治確立に向けても取り組んでいる。現時点では、サンフアン・コマラパ、テクパン、サンティアゴ・サカテペケなど8つの先住民行政区の議会に女性織り手共同体審議会が組織されているという。



2017年8月法5247号審議開始



マリア・チュラの商品

出典：<https://elpais.com/> 2021/6/12
https://www.facebook.com/AfedesSacatepequez/?tn-str=k*F

(5) ニカラグア、新たな一撃か、再び沈黙か

ウルグアイの週刊誌 Brecha (6月25日号)に、元大統領ホセ・ムヒカ夫妻など知識人など約140名がニカラグア大統領ダニエル・オルテガに宛てた書簡が公表された。書簡では、ソモサ体制打倒闘争への参加、1990年選挙敗北を受けて野党連合ビオレタ・チャモロに大統領職を正式に譲ったことなど称賛に値する歴史を持つ人物が、独裁的で権威主義的な大統領に変貌したと断言している。とくに1990年以降、オルテガと彼を支持するサンディニスタ民族解放戦線は、腐敗、理念の放棄、不正な金儲け、富を築き権力の維持を目的とした最悪の右派との連携などによって劣化したと指摘する。

書簡は、6月上旬の大統領選出馬予定者4名拘束、中旬の元サンディニスタが結成した刷新民主連合 (UNAMOS) の6名 (元サンディニスタ司令官3名) の拘束があった直後に作成されている。その後も、政権による反対派狩りは続き、7月5日時点で拘束された「政治犯」は26名とされる。また、2018年春の反政府運動以降に拘束された「政治犯」は130人超という。

今回の弾圧は、米国機関から資金を受け取ったマネーロンダリング、テロリズム、権力者への制裁措置要請など国家主権に反する活動を行った反逆罪の名目でおこなわれている。また、セルヒオ・ラミレスなど著名なジャーナリストや独立系メディアの関係者20名以上が、サイバー犯罪法に基づき、メディアなどでの発言を問われ召喚されている。ルイス・カリオン (元サンディニスタ司令官)、ジオコンダ・ベリ (詩人)、カルロス・フェルナンド・チャモロ (ジャーナリスト) のように出国を選択する関係者も少なくない。

書簡は弾圧被害者との連帯の表明とともに、ニカラグア政府に迫害と抑圧の停止、政治犯釈放、法の支配の尊重を要求している。米州人権委員会も同様の要請を行っている。7月4日、ダニエルの権力執着を批判してきた兄のウンベルトも反対派の拘束停止、釈放を求めたが、裸の王様ダニエルには届くことはない。

大統領選出馬	6	元政治家	2	農民運動	3
財界関係	2	野党関係	2	学生運動	2
チャモロ財団	2	UNAMOS	6	報道関係	1
7月5日時点での26名の政治犯					

出典：<https://brecha.com.uy> 2021/6/25

(6) サパティスタ 421 部隊ヨーロッパ巡行

7名のサパティスタ代表団が乗船した大型ヨットのラ・モンタニャ号は、5月2日のイスラ・ムヘレス出港から50日間の航海の末、6月22日、スペイン・ガリシアのビーゴ湾に到着した。その後、メリダ、マドリー、バルセロナ(7月7日)の各地で集会に参加し、フランスのパリに到着(7月10日)した。10月までのヨーロッパ滞在中各地で集会が予定されている。

サパティスタは、1997年「1,111人サパティスタ首都行進」、2001年「大地の色の行進」、2006-07年「別のキャンペーン」、2017年先住民全国議会・先住民統治議会 (CNI-CIG) と連携した「マリチュイの歩み」などキャラバンを組織したが、国外では今回が初めてである。

今回の「生命のための渡航 (Travesía por la vida)」については、2020年10月発表のコミュニケで告知されていた。その目的は、多様な存在がともに戦うことで新しい世界が可能となることを確認することだという。現在の様々な不正義に目をつむり、大昔の征服を非難し、許しや補償を求めるつもりはなく、メキシコの先住民は、征服されることなく今も抵抗を継続していると伝えることである。今回はヨーロッパだが、ほかの大陸にも代表団を派遣することも計画されているという。

派遣団はラ・モンタニャ号に乗る海路班と空路班で構成されている。サパティスタ共同体から選ばれた女性4名、男性2名、トランス1名で構成される海路班は421部隊と命名された。おもにCNI-CIGメンバーで構成される空路班は、パスポート発給業務の妨害などによって遅延したが、7月半ばには合流するという。



乗船模擬訓練中の421部隊



7月7日バルセロナ集会

出典：<https://www.caminoalandar.org/una-montaña-en-el-mar>
https://radiozapatista.org/?page_id=37220&lang=en

悲しいお知らせがあります。レコム設立直後からの会員で私たちの大切な仲間であった渡邊秀明さん（東京在住）がこの5月に急逝されました。

去年からのコロナ禍により印刷ができない状況が続いていますが、通常「そんりさ」は編集作業が終わると、印刷は東京で、発送は大阪で、それぞれメンバー有志数人によって行われます。その印刷の作業を中心になって担ってくれていたのが渡邊さんでした。印刷用の紙は持ち込まなければならないので、その運搬は結構な作業となります。さらに印刷機の微調整を行い、印刷が終わったら丁合を行い、最後にまとめて宅急便で大阪に送ります。そうした一連の作業を、渡邊さんはいつも穏やかで笑顔を絶やさず、しかしとても効率よくこなしていたのを思い出します。

レコムの活動の他にも、ホームレス支援などさまざまな社会問題に取り組んでおられました。また、仲間を招いてホームパーティをしたり、お連れ合いと一緒にあちこち旅行したり、スキーをしたりして楽しむ一面もお持ちでした。私はしばらく前にニカラグアのスタディ・ツアーで一緒したことがあり、懐かしい思い出です。心よりご冥福をお祈りいたします。

新川志保子

今回の「そんりさ」印刷作業は東京で、2021年10月9日（土）

発送作業は関西で、2021年10月16日（土）の予定です。

参加いただける方は、recom@jca.apc.org まで連絡ください。

Vol. 176	メキシコ・オアハカ州地峡部の自律的女性議会	Vol. 173	コロナ禍のラテンアメリカ
Vol. 175	『裏切者』が米墨政府の汚職と麻薬カルテルの内実を暴く	Vol. 173	コロナ禍のラテンアメリカ
Vol. 174	ナルコ回廊再びー北部最前線	Vol. 172	ナルコ回廊再びー北部最前線
		Vol. 171	革命から40年を迎えたニカラグアの今

メーリングリスト

レコムに入会（もしくは購読）すると、メーリングリストにも無料で参加できます。入会したら、メールアドレス、自己紹介メールを添え、recom@jca.apc.org まで、ご一報ください。メーリングリストに登録します。レコムの活動は会員のみなさんによって支えられています。

会員の種類

☆会員：年 8,000円 …会の運営、総会参加・投票、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
☆学生会員：年 5,000円 …会の運営、総会参加・投票、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
☆賛助会員：年 10,000円（一口） 総会参加、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
☆購読会員：年 4,000円 …『そんりさ』の購読、メーリングリスト参加可

レコム連絡先

〒616-0004 京都市西京区嵐山中尾下町20-15
太田方
TEL 075-862-2556（留守電）
お問い合わせは、E-MAIL、手紙、もしくは留守番電話にメッセージをお願いします。

ホームページ：<http://www.jca.apc.org/recom>

E-mail：recom@jca.apc.org

Facebook：<https://www.facebook.com/recomsonrisa/>

郵便振替口座：00110-7-567396

日本ラテンアメリカ協カネットワーク

レコム口座 162万0577円

グアテマラ基金口座 28万7790円

（2021年7月現在）

そんりさ（SONRISA）177号

2021年7月17日発行

日本ラテンアメリカ協カネットワーク（RECOM）

定価 400円